**ＪＡ津安芸減農薬栽培「コシヒカリ」栽培マニュアル**

**令和５年３月作成**

1. **種子予措**
	1. **種子消毒**

**60℃10分が基準です。ただし、消毒時期が寒いと湯温が下がりやすいので注意してください。**

* 1. **浸種**

**消毒後は低温水で十分放冷した後浸種作業に入ります。ただし浸種初期の10℃以下の低温は発芽率の低下を招くことから、13℃前後での浸種を心掛けます。**

* 1. **出芽**

**低温期の場合出芽をそろえるために、加温式の育苗期の利用が有効です。**

1. **圃場準備**
	1. **荒起こし時は、雑草を十分鋤き込むようにしてください。**
	2. **代掻きは、除草剤の効果を高めるために均平をしっかりと行ってください。**
2. **施肥（収量向上には「穂数の確保」と「籾の充実」が必要）**
	1. **施肥全般の考え方**

**〇総窒素量目安　７～８kg/10a**

**基肥：２～３kg/10a**

**穂肥：４～５kg/10a**

* 1. **基肥**

**有機資材で土づくりを行い化成肥料の削減を行う。基肥一発肥料については有機含有肥料で行う。**

* 1. **穂肥**

**穂肥（出穂18～20日、10日前　計2回）：幼穂形成始期、穂ばらみ期にセンシング（ザルビオ）を行い生育量に応じて穂肥（局所施肥）をします。**

* 1. **注意点**

**・適正な基肥の施用により穂数を確保することにより収量を確保します。**

**・過度な多肥栽培は倒伏および食味低下につながるため避けましょう。**

1. **田植と水管理**

**① 田植時の栽植密度**

**50～60株/坪**

**分げつを確保するため、極端な疎植は控えること**

**（有機肥料栽培は化成肥料よりも若干分けつがとりにくくなります）**

**② 水管理**

**・田植え後は風の強い日が多いため、植傷み防止のためやや深水とする。**

**・活着後は分けつ確保のため浅水とする。**

**・田植え後１カ月程度で２０本程度の株が確保されたら中干しに入る。**

**・出穂期は最も水を必要とするため最低でも浅水を確保する。**

**・落水は登熟向上のためできるだけ遅めにする**

1. **除草管理**

**基本的に除草は１回。残草しないように代かきは丁寧に行う。**

**また、後発雑草（特にクサネム、ヒレタゴボウ）は早めに抜き取るか中後期除草剤で除草する。**

1. **病害虫防除**
	1. **いもち病**

**コシヒカリはいもち病に強くないため、箱処理剤による防除と本田予防防除が必要。**

* 1. **斑点米カメムシ**

**近年発生量が多くなっています。被害としては「不稔による収量減」「斑点米の発生」と減収、品質低下につながるため防除は必須です。**

1. **収穫時期**

**収穫適期：籾水分26～28％　出穂後35日前後が刈り取り適期**

**・もみを充実させるため、落水は可能な限り遅らせる**

**・胴割や穂発芽を避けるため極端に刈り遅れないように**

1. **土づくり（次年度作に向けて）**

**・圃場の生産力の維持増進のため、稲ワラ等の全量すき込みおよびたい肥**

**（鶏糞等）等の施用を行いましょう。**

**・ただし、過剰な有機物の施用は収量、品質を不安定とさせるため、土壌診**

**断により状態の把握に努めましょう。**